

## もの言う牧師のエッセー 第180話

## 「ダラス・バイヤーズクラブ」

「てめえ、俺に近づくんじゃねえ！！地獄に落ちやがれ！このホモや野郎が！！」

1985年テキサス州ダラス。ロデオ・カウボーイで荒くれ男のロン・ウッドルフは無類の女好きで、夜ごと売春婦を招いて酒とセックス三昧の日々。だがある日、注射による薬物常用者の女性とのセックスからエイズに感染、余命30日と宣告される。当時まだエイズはゲイ特有の病気だと一般的には信じられており、友人やロデオ仲間たちに疎んじられるいっぽう、自らは通院するたびに会う大勢のゲイ患者らを露骨に嫌い罵倒するゆえに、彼は全く周囲から孤立する。

当時エイズ新薬AZTは臨床試験中で、米国内では処方出来ないことを知った彼はメキシコに潜入。そこで米国医師免許を剥奪された無免許医師と出会い、AZTより有効とされる未認可薬DDCやペプチドTを勧められ、自ら服用しつつこれをゲイに売りさばくビジネスを画策。大量に薬を買い込みテキサスの路上で商売しようとするがサッパリ売れず途方にくれていた時、かつて病院で自分が罵倒したことのあるゲイの青年レイヨンと再会。「アンタじゃ絶対売れないよ。アンタにはゲイに対するレスペクト（尊敬）がないから！」と怒鳴られ、方針転換をした彼はレイヨンを初めとするゲイの人々と協働し未認可薬を非合法販売する「ダラス・バイヤーズクラブ」を立ち上げ、やがて全米からゲイの顧客が押し寄せる“名店”へと成長。その後も自らエイズと闘いながら新薬の認可を求めて政府相手に奔走する彼を見て、周りのゲイたちの彼を見る目が尊敬へと変わり、またロンもゲイたちの為に商売度外視で尽力するがついに92年に力尽き他界した。

あれから20年以上の歳月が流れた今年3月末、東京都渋谷区の区議会本会議で、全国で初めて同性カップルを結婚に相当する関係と認める条例が賛成多数で成立した。同性カップルがアパートの入居や病院での面会を“家族ではない”として断られるケースがあるのを踏まえ、不動産業者や病院に彼らを夫婦と同等に扱うよう求め、性的少数者の権利を保障する。さて、教会成立以来2000年間に渡ってゲイと折り合いの悪い我らクリスチャンはどうするか。かつてのロンのようにゲイを罵倒し毛嫌いするのか。聖書はハッキリ言う。

「全ての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現わすためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見

のがして来られたからです。」ローマ人への手紙 3章 23-25 節。

つまり罪を犯した我ら全ての為に神であるキリストが十字架でその身を捧げ、その結果キリストを信じる全ての人々が赦され正しい人とされたなら、“赦された分際”の我らのどこに口を挟める余裕があるのか。神が罪を憎んで人を愛したように、我らも罪を憎み隣人をレスpektし愛するべきである。今の世を嘆くのも、無視するのもない。キリストを見つめ彼に続く。そして最後に彼が一切をジャッジする。いよいよクリスチャンの腕の見せ所だ。 2015-4-24

